

1. 到達目標

A) 一般目標

全人的医療を実践できる医師になるために医療倫理を守り良質な医療を提供できるなどの医師としての基本的価値観の形成に配慮した研修を行う。糖尿病・内分泌代謝疾患を中心に内科全般にわたる主要症状および所見に対する診断と主要疾患の治療に必要な基本的知識を習得する。

B) 行動目標

(1) 全人的医療に関わる項目

1. 人間性を尊重した患者中心の医療を行う。
2. 患者への十分な説明と患者の納得を重視した医療を提供する。
3. 医学的根拠に基づいた医療を行い、安全医療を目指す。
3. 地域との連携を充実し、きめ細かい医療を行う。
4. 他の医師、医療者と共に研鑽しながら、生涯にわたって自律的に学び続ける。

(2) 診療内容に関わる項目

1. 糖尿病、内分泌疾患の病歴聴取、問診、身体所見をとることができる。
2. 初期外来で重症度を評価し、頻度の高い疾患、症候の鑑別、初期対応ができる。
3. 緊急を要する糖尿病、内分泌疾患の病態と治療法を理解、習得し、診断、治療を行える。
4. 糖尿病患者の病型診断、合併症の評価、薬物療法、運動療法、食事療法を実施し、病態に応じた血糖管理が行える。
5. 内分泌疾患の検査、治療が実践できる。

2. 方略(On the job training(OJT))

(1) 病棟

1. 適切な態度で医療面接、神経所見を含む基本的な身体診察を行い、SOAP 形式に従って診療録の記載を行う。
2. 毎日各担当患者の回診を行い、医療面接、診察で得られた情報をもとに病態を把握し、検査・治療計画の立案、検査の施行、患者および家族への説明、処置などを指導医・上級医の指導のもと行う。
3. 糖尿病教育担当者チームの一員として入院患者の療養指導にあたる。
4. 受け持ち患者が退院した際には、退院サマリーを作成する。

(2) 外来

1. 糖尿病教室・透析予防外来・フットケア外来の見学を行い、糖尿病療養指導についての研修を行う。
2. 指導医及び上級医の指導のもと、甲状腺超音波などの外来患者の検査を行う。

(3) 救急外来

1. 糖尿病、内分泌疾患において、入退院の判断を訓練し、初期から診療計画の立案に関わる。退院までの継続した診療、治療を習得する。

(4) 症例検討会(カンファレンス)

1. 週 1 回の病棟カンファレンスに参加し、受け持ち患者の治療経過や問題点についてプレゼンテーションを行い、今後の治療方針決定の議論に参加する。
2. 週 1 回の部長回診に参加し、受け持ち患者の治療経過や問題点についてプレゼンテーションを行い、今後の治療方針決定の議論に参加する。

(5) 勉強会

1. 週 2 回の NST 回診に参加し、栄養状態の評価・栄養管理の方法について学び、NST チームの一員として今後の栄養管理についての議論に参加する。

3. 評価

- (1) 研修医は、EPOC2 の研修医評価表で、臨床研修到達目標項目の自己評価による研修達成度評価を行い、ローテート終了時に自己評価記載を完了する。指導医は、同評価表の研修医自己評価を確認し、当該ローテート研修の指導医評価記載を完了する。指導医による評価結果は EPOC2 上でフィードバックされる。
- (2) 臨床研修指導医は、EPOC2 上で診療・手技・患者マネジメントについて適時評価を行う。
- (3) 臨床研修指導医または上級医は、本カリキュラムの行動目標のすべてに対する観察を行い、ローテート面談を適宜実施し、形成的評価をフィードバック面談シートに記録する。ローテート終了時の面談では、適宜看護師などの指導者も入り、総合的評価のフィードバックを行い、フィードバック面談シートに記録する。
- (4) 臨床研修指導医は、研修医が作成した病歴要約により、経験すべき症候、疾病、病態に関する理解度について WPOC2 上で形成的評価を行う。
- (5) 上記評価の上、次のローテーションで何を学ぶべきかなど、目標達成の方向性を見出せるように省察の時間を持ち、話し合いを行う。

4. 週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	回診	回診 フットケア外来、糖尿病教室	部長回診	回診	回診 フットケア外来
午後	回診 超音波検査 糖尿病教室	NST 回診	回診 超音波検査 透析予防外来	NST 回診	回診 救急外来
17:00-	症例検討会	内科会			